

Title	Neuropsychological test for the detection of dementia in elderly individuals : the Nishimura Dementia Test
Author(s)	福永, 知子
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/47413
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	福永知子
博士の専攻分野の名称	博士(医学)
学位記番号	第20734号
学位授与年月日	平成18年11月27日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文名	Neuropsychological test for the detection of dementia in elderly Individuals : the Nishimura Dementia Test (高齢者の認知症判別のための心理テスト：西村式認知機能検査)
論文審査委員	(主査) 教授 武田 雅俊 (副査) 教授 森本 兼曩 教授 荻原 俊男

論文内容の要旨

(目的)

認知症の初期の段階で薬物療法や心理・社会的介入をおこなえば、その中核症状や周辺症状の進行を遅らせることができる。そこで、本研究では、様々な認知機能を評価することにより、認知症の初期の段階を鋭敏にとらえ、幅広い認知症の重症度を評価することが可能な、高齢者の認知症判別のための心理テストを作成・標準化することを目的とした。

(方法ならびに成績)

448名の高齢被験者に対し、23の課題からなる予備テストと、実際の日常生活を観察することによって高齢者の精神機能を評価する NM Scale を施行した。林の数量化 I 類を適用した結果に基づき、予備テストを修正して高齢者用の心理テストを作成し、西村式認知機能検査 (Nishimura Dementia Test, ND Test) と命名し、標準化をおこなうとともに、妥当性と検査-再検査の信頼性について検討した。

その結果 448名の被験者において、ND Test と NM Scale は高い相関を示した。また、実際の NM Scale との間における認知症の重症度判別の総合的一致率、認知症・非認知症の判別の感度と特異度は良好であった。さらに、別の高齢被験者群を用いて、高い妥当性と検査-再検査の信頼性が示され、改訂長谷川式簡易知能評価スケールおよび Mini-Mental State Examination とも高い相関を示した。

(総括) ND Test は、様々な認知機能を評価することにより、高い妥当性と信頼性をもって幅広い認知症の重症度を評価することが可能である。

論文審査の結果の要旨

本研究では、様々な認知機能を評価することにより、認知症の初期の段階を鋭敏にとらえ、幅広い認知症の重症度を評価することが可能な、高齢者の認知症判別のための心理テストを作成・標準化することを目標とした。外的基準として評価尺度の NM スケールを採用して、新たに作成した西村式認知機能テスト (ND テスト) は認知症の重症度判別の総合的一致率、認知症・非認知症の判別の感度と特異度は良好であった。さらに、別の高齢被験者群を用いて、高い妥当性と検査・再検査の信頼性が示された。広く用いられている改訂長谷川式簡易知能評価スケールおよび **Mini-Mental State Examination** とも高い相関を示すとともに、両検査にはない物語再生課題によって軽度認知機能障害 (MCI) の診断に良く用いられる論理的記憶の程度を測定できることが示された。よって、学位論文に値するものと認める。